チョウとの出会い：キバネセセリ　140730, 200407

筆者が 1954 年に昆虫少年を始めた高知市五台山周辺や市街平地でキバネセセリには会えなく、大豊郡梶が森まででかけ、海抜 7-800m の仏嶽寺周辺まで登って初めて見ることができる希少種であり、今でも高知では山岳部でしか出会いないチョウに変わりはない。これは幼虫が成育する食樹であるハリギリが山地性の植物であるためだと思われるが、そのハリギリの生育分布についてはよく知らない。2000 年の 7 月、北海道丸瀬布の林道でツル性植物の白い花に集まる本種の大乱舞を体験したが、一般的に同一場所で多くの個体を観察できるような種ではなく、その撮影記録も簡単には残せずにいた。

July 24, 2010：伊那市長谷

嬬恋で親類と別れて南アルプス村長谷へと走り、樹液に集まるオオムラサキを確認。この樹液のある場所はすぐ下に国道があって車が頻繁に行き交うがオオムラサキは悠々と樹液を楽しんでおり、キバネセセリもきていた。

July 23, 20104：しらびそ峠

大鹿村地蔵峠経由で訪れたしらびそ峠から、左へとのびる最近ではほとんど人が入りこまないと思われる瓦礫だらけの道を歩くと、左手山側は赤茶色の岩肌が目立つ険しい崖で、右側はいきなり深い谷を形成する断崖絶壁で、行動には十分注意が必要な環境が続く。その山側斜面にはウツギの白い花が多く、ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ギンボシヒョウモン、ウラギンスジヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ミヤマカラスアゲハなどに混じって、本種も楽しげに蜜を求めて飛び回っている光景が展開している。崩れ落ちそうな斜面に足をかけ、吸蜜中の♀個体にできるだけ接近してビデオ撮影をし、その静止画像をきりとって初めて翅表の白紋列を確認できる。

次いで、大鹿村から分杭峠経由で諏訪湖へと向かう途上、路傍にブッドレアの紫色の花がびっしりと咲く場所があって、くたびれたミヤマカラスアゲハに交じってキバネセセリも蜜を求めていたが撮影記録はとれず。

July 12, 2017：布礼別川林道

木陰となった部分が格好の湿地帯となっていて複数頭のキバネセセリがあちこちで吸水している。最初の撮影対象は路面で夢中になって吸水中のコムラサキ。翅表のムラサキの輝きはときおり開翅して見せてくれる瞬間にだけ観察できるが、北海道産は幻色が濃くてきれいだ。道の真ん中に転がる獣糞ではシータテハやコチャバネセセリがこちらも夢中になって吸汁している。圧倒的に個体数が多いキバネセセリはそこかしこで吸水しており、どこで発生しているのかその数の多さに驚く。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.